

民衆の文化と地方への広がり

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

室町時代の文化は、どのように民衆や地方に広がっていったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 民衆に広がる文化

くらしの中の文化

ちやのゆ
茶の湯

客をもてなすために茶を出す作法。のちにわび茶として発展した。

おとぎぞうし
御伽草子

「一寸法師」などの、絵入りでわかりやすい短い物語。

れんが
連歌

和歌の上の句・下の句を、何人もで次々によみつなぐ文芸。

商工業が発達して民衆の力が強まると、文化は一部の公家や武家だけのものではなくなった。**書院造**の部屋では、客をもてなすために茶を出す**茶の湯**や、床の間に花をかざる**生け花**が広まり、武士だけでなく都市の有力な商工業者にも親しまれた。

民衆の間には、「一寸法師」や「浦島太郎」などの絵入りの物語である**御伽草子**が広まった。和歌の上の句と下の句を何人もで次々によみつなぐ**連歌**も流行し、人々が輪になっておどる**盆踊り**も各地で行われるようになった。これらの多くは、今も受けつがれている。

2 文化の地方への広がり

文化の広がり

あしかがっこう
足利学校

下野(栃木県)にあった学校。各地から僧や武士が集まり学んだ。

おおうちし
大内氏

山口を本拠とした大名。京都から公家や僧を迎え、文化が栄えた。

応仁の乱で京都が戦場になり、焼けてしまうと、公家や僧の中には、京都をはなれて地方の大名のもとへ移り住む者が多く現れた。山口を本拠とした**大内氏**のもとには、京都から多くの公家や僧が移り住み、京都の文化が取り入れられた。水墨画を大成した雪舟も、大内氏の保護を受けて山口で活動した。

地方では教育も広がり、下野(栃木県)の**足利学校**には、各地から僧や武士などが集まって**儒学**などを学んだ。連歌や茶の湯も、地方の武士や都市の商人の間に広まっていった。こうして、都の文化は少しずつ地方にも根を下ろしていった。

場所	ようす
京都	応仁の乱で戦場となり、公家や僧が地方へ移る
山口(大内氏)	公家や僧が移り住み、京都の文化が伝わる
下野(足利学校)	各地から僧や武士が集まり、儒学などを学ぶ

問いへの答え

商工業が発達して民衆の力が強まると、文化は公家や武家だけのものではなくなった。茶の湯や生け花、御伽草子、連歌、盆踊りなどが都市の人々や民衆に広まり、今も受けつがれている。また、応仁の乱で京都が戦場になると、公家や僧が大内氏などの地方の大名のもとへ移り、都の文化が地方へ伝わった。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

